



平成29年8月7日

豊明市長 小 浮 正 典 様

豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統合検討委員会
委 員 長 小 川 雄 二

豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校の統合について（答申）

平成28年5月25日付け豊創第5号にて諮問のありました豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校の統合について検討した結果、次のとおり答申します。

記

1 両校の現状分析

本検討委員会では、8回にわたり豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校のよりよい教育環境について検討を行ってきました。その中で、保護者アンケートや教員アンケート・ヒアリングの結果から、双峰小学校及び唐竹小学校の教育環境において次のようなよい点と課題をまとめました。

（1）学習面

ア よい点

- ・児童一人一人を大切にしたい個に応じた指導が行われている
- ・特別活動や学校行事などで児童が活躍できる機会が多い
- ・児童1人あたりの学校施設の利用できる面積や時間が大きい

イ 課題

- ・外国籍の児童の割合が全校児童の2割以上であり、日本語の習得が十分でない児童がおり個別指導が必要である
- ・指導者となる教員の絶対数の不足により、児童の希望に沿った種目の部活動が行えない

(2) 学校生活面

ア よい点

- ・児童同士のつながりが強い
- ・上学年が下学年の面倒をみるなど、学年を超えた交流ができる
- ・長年の間に培われた伝統や上学年から下学年に伝承されている活動がある
- ・児童一人一人に目が行き届き、トラブルやいじめを発見し、早期の解決を図ることができる
- ・外国籍の児童が多く、多文化に触れ合うことができる
- ・保護者の学校運営への協力が得られている

イ 課題

- ・人間関係が固定化し、人間関係の広がりが少ない
- ・トラブルを長期間引きずることがある

(3) 学校運営面

ア よい点

- ・教員間の意思疎通や生徒指導に関する情報共有が密にできる
- ・学校施設を有効に使用することができる

イ 課題

- ・教員一人当たりが担当する校務分掌が多くなる

2 統合により予想される成果、予想される課題

両校の現状分析で挙げた良い点や課題について、両校を統合することにより予想される成果、予想される課題を下記のとおりまとめました。

なお、この答申における小学校統合とは、どちらかの学校が吸収されるということではなく、既存の施設を活用しながら新しい学校を創ることを前提としています。

(1) 学習面

ア 予想される成果

- ・運動会や学習発表会など集団活動や行事において、より活発な活動ができる
- ・予算規模拡大により、教材備品設備の拡充や、先進的教具の整備、図書資料の充実が期待でき、教育活動の幅を大きく広げ、深めることができる

イ 予想される課題

- ・市が独自で教員を配置しなければ、児童一人一人を大切にしたい個に応じた指導が行いにくくなる可能性がある
- ・日本語の習得が十分でない外国籍の児童が増えることから、習熟度に合わせた授業を行う必要がある
- ・学校行事や諸活動を規模の変化に適合させない場合、一人一人の児童が活躍する機会が減る

(2) 学校生活面

ア 予想される成果

- ・学校全体の児童増により人間関係が広がり、多様な個性を尊重する豊かな人間関係をつくることができる
- ・クラス替えが可能になることで、児童同士の人間関係等に配慮した学級編制ができる
- ・教員の数が増え、児童の希望に沿った種目の部活動を行うことができる

イ 予想される課題

- ・児童増により学年単位の活動のウエイトが高まるため、上学年が下学年の

面倒をみるなど、学年を超えた交流ができにくくなる

- ・児童数が増えることにより、児童間のトラブルやいじめを防ぐための個別的・積極的対応と早期発見・早期解決への体制作りが急務となる
- ・統合前後の時期においては、環境変化による児童の精神的負担へのケアが必要である

(3) 学校運営面

ア 予想される成果

- ・教員の校務分掌を効率化できるため児童への対応に一層の時間を割くことが可能になる
- ・複数の教員で学年を運営できるため、学年の担任同士がお互いに研究等を行い、力量を高め合うことができる

イ 予想される課題

- ・教員間の意思疎通や生徒指導に関する情報共有をしにくくなる
- ・通学距離が延びることにより、通学に時間がかかることや通学中の安全に対して今まで以上に配慮しなければならない
- ・統合前後の時期においては、一時的に学校事務が増える

3 両校のよりよい教育環境について

ここまで、両校の現状分析と統合した場合に解決できることや課題になることについて述べてきました。これらの分析を踏まえ、さらにはこれまで委員会で行った保護者アンケート、教員アンケートの結果、保護者との意見交換会での意見などをもとに、両校のよりよい教育環境について次のように提言します。

(1) 学習面

ア 1クラスあたりの児童数

学習面においては、教員アンケートやヒアリングの結果から、学校規模よりもクラスの児童数の数が大きく影響することが分かりました。そこで、個に応じたきめ細かな指導をするためには、1クラスあたりの児童数を可能な限り少なくすることが必要であると考えます。

「2 統合により予想される成果、予想される課題」では、統合した場合の課題として、児童一人一人を大切にしたい個に応じた指導が行いにくくなることを挙げています。もし統合した場合には、児童数が増えることに併せて、場合によってはクラス数が減少し、1クラスあたりの児童数も増加することがあります。

以上のことから、1年生及び2年生は35人学級、3年生以上は40人学級となっている現状から、統合する・しないに関わらず、全学年において35人学級にすることにより、よりよい教育環境にすることができると考えます。

平成29年4月1日現在

		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援 学級
双峰小	人数	50	62	51	42	50	47	42	40	47	43	39	35	4
	クラス数	—	—	—	—	—	—	2	2	2	2	1	1	2
	クラス人数	—	—	—	—	—	—	21	20	24	22	39	35	—
唐竹小	人数	30	33	29	31	33	38	28	32	31	30	35	27	6
	クラス数	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	3
	クラス人数	—	—	—	—	—	—	28	32	31	30	35	27	—
統合した 場合	人数	80	95	80	73	83	85	70	72	78	73	74	62	10
40人学級	クラス数	2	3	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	3
	クラス人数	40	32	40	37	28	28	35	36	39	37	37	31	—
35人学級	クラス数	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3
	クラス人数	27	32	27	24	28	28	35	24	26	24	25	31	—

イ 外国籍児童の日本語教育

両校は、外国籍の児童数が多いことが特徴です。これにより、児童は多文化に触れ合える機会が増えるというよい点がある一方で、外国籍の児童の中には日本語の習熟レベルに差があるという学習面での課題もあります。

現在、日本語指導員に加え、NPO法人プラス・エデュケートや国立大学法人愛知教育大学の協力により、初期の日本語指導を行っています。今後は、そのレベルに合わせた習熟度別の取り出し授業をさらに充実させ、学校全体の学力向上を図ることが必要であると考えます。

ウ 両校のメリットを生かす

小規模校である両校の良い点として、『学習面で児童一人一人の子どもたちを大切にしたい個に応じた指導ができる』、『各行事や諸活動において児童が活躍できる機会が多い』、『学校施設を有効に使用することができる』ということがあります。

また、文部科学省の公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きにおいて一般的に小規模校の学校運営上の課題として挙げられたもののうち、『運動会や学習発表会等集団活動及び行事の教育効果が下がること』については、学校の工夫により十分な効果を上げていること、『上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなること』については、上級生が積極的に下級生の世話をするなど密なコミュニケーションができていること、『班活動やグループ分けに制約が生じること』については、協同の学びを取り入れるなど様々な工夫により教育効果を上げていることが確認できました。さらには、児童数が少ないことにより様々な校外活動がしやすいなど、課題を克服し、よさに繋げていることも分かりました。

引き続き、できる限りこのメリットを継続した教育を行う必要があると考えます。

(2) 学校生活面

ア 人間関係の広がり

学校生活面では、できる限り人間関係の広がりをもたせ、多様な個性を尊

重し、社会性やコミュニケーション能力を身に付けさせる必要があると考えます。仮に統合した場合の小学校イメージに関する保護者アンケートでも、『多くの友達や先生とめぐり合うことができること』に最も魅力を感じています。

現在、両校の教員の皆様の努力により、社会性やコミュニケーション能力を養うことができています。一方で、将来を担う子どもたちの人間関係の広がりなどを考えた場合、教員アンケートの自由記述欄では、『1 学年 2 クラスまたは 3 クラスが望ましい』という意見があり、また仮に統合した場合の小学校イメージに関する保護者アンケートにおいても『クラス替えができる』に魅力を感じる方が多かったことなどから、1 学年あたり 100 人弱の児童数が望ましいと考えます。

イ 両校のメリットを生かし、デメリットをなくす

小規模校である両校のメリットとして、『児童同士や児童と教員とのつながりが強く、それにより学校に対する愛着や信頼を持つことができる』、『のびのびと学ぶことができる』、『学年を超えた交流が活発になる』、『教員が児童の学習や学校生活を把握しやすく結果的にトラブルの早期発見・早期解決を図ることができる』といったことがあります。一方、デメリットとして、『人間関係の固定化』やそれにより『トラブルを長期間引きずってしまう』といったこともあることが分かりました。

これらのメリットを生かし、デメリットをなくす、きめ細かい環境整備を望みます。

(3) 学校運営面

ア 校務分掌の負担減

学校運営面では、小規模校ほど教員間の意思疎通、連携が密になり組織対応が可能になるメリットがあります。他方、校務分掌の負担が大きくなり、授業や生徒指導に時間をかけることができなくなるデメリットもあります。

そこで、教員の校務分掌による負担が悪影響を及ぼすことのないよう、学校全体の教員数を増やすような方策が必要です。

4 よりよい教育環境の実現に向けて

本委員会が提言するよりよい教育環境を実現するために、市長は次のことを行っていただきますようお願いいたします。

(1) 両校の統合について

「3 両校のよりよい教育環境について」において提言したことを、両校の統合により実現するのか、または統合せずに実現するのか、市としての基本方針を策定してください。また、基本方針では、両校がこれまで培ってきた教育に関する伝統、文化などを生かしながら、将来を担う子どもたちに向けた教育目標や目指すべき学校像を具体化してください。さらには、近い将来に両校の学区において、今回と同様の問題が起こることのないよう、中長期ビジョンに基づく基本方針となることを望みます。

(2) 保護者や地域住民の理解

よりよい教育環境を実現するためには、学校、就学前児童も含めた保護者、地域住民の方など関係者のみなさまの理解が不可欠です。

基本方針の策定後は、課題の一つ一つについて、具体的な解決方法を提示し、意見交換会などを積み重ね、関係者のみなさまが理解し納得したうえで、実現に向けて進めてください。

(3) よりよい教育環境の評価・検証

市長は、一定期間後に児童・教員・保護者アンケートなどを行い、よりよい教育環境が達成されたかどうかの評価・検証を行ってください。それにより、新たな課題が出ればその具体的な対策をとり、効果があることについては、市内の他の学校への導入も検討していただきますようお願いいたします。